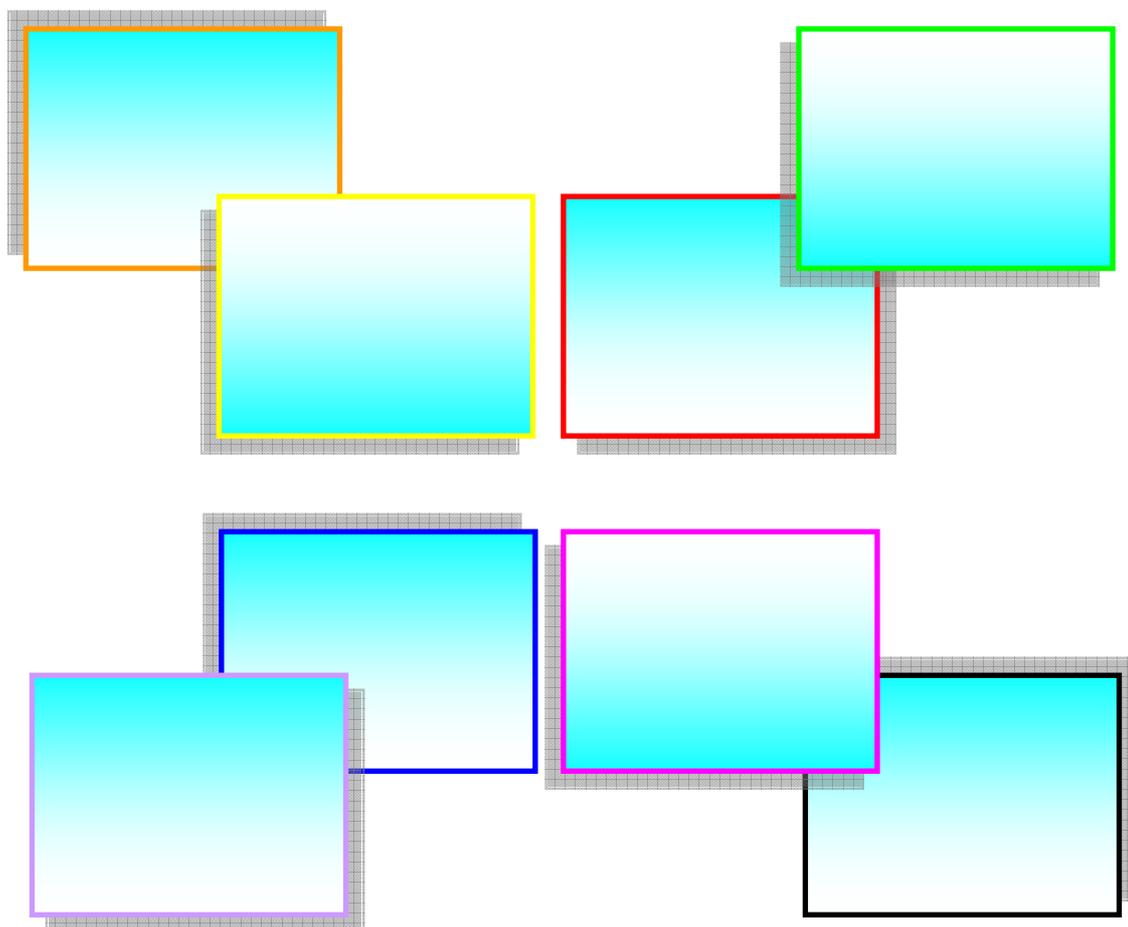


平成17年度 中学生のための景観教室 実施報告書



平成17年度都市景観啓発事業
宮崎市都市整備部都市景観課
(実施協力校：宮崎市立住吉中学校)

はじめに

宮崎市では、平成2年4月に宮崎市都市景観条例を施行し、「豊かなひろがりのある、花のにあうまち・みやざき」を都市景観形成の基本理念として、緑豊かな自然と文化に育まれた、宮崎らしい、美しく魅力あるまちづくりを推進しています。また、本年度より「九州一の景観都市づくり」にも取り組んでいます。

「都市景観」とは、視覚として捉えられる建築物や木々の緑などの都市の風景やこれを取りまく遠景としての自然環境はもとより、市民生活の中から生まれてくる街の表情、文化、心象風景など、質的、精神的なものを含めた総合的なものとして受け止められるものです。そのため、都市景観は単に物理的な環境を示すものではなく、市民が営む都市活動、都市環境が総括された個性、感性の表現として、その都市の文化水準を表すものといえるものです。

私たちの住む宮崎市には、緑豊かな山々や美しい海岸線、^{とうとう}滔々（水が広くみなぎり、勢いよく、盛んに流れて行くさま。）と流れる大淀川などの恵まれた自然が多く残されています。それらを活かしながら、文化の香り豊かな快適な市民生活が営めるように、自然環境と都市空間をバランスよく配置し、市民が共有できる良好な景観を有するまちを創っていく必要があります。

そのためには、市民一人ひとりの「景観」に対する意識の高揚を図ることが大変重要になっています。特に、将来の景観形成の担い手である子供たちに対して、学校教育の中で景観やまちづくりに関する話題を積極的にとり上げ、景観について学ぶ機会を提供するためのしくみが必要とされています。

この「景観教室」は、景観に関する学習を社会科の授業にとりあげた初の試みとして、平成14年度から各学校の先生方と協力しながら実施しているものです。

目 次

第1章 景観教室の概要	・・・	P 1
第2章 景観教室の進め方		
STAGE 1 (1時間目)	・・・	P 3
第3章 まちづくりに関する学習		
STAGE 2 (2～3時間目)	・・・	P 6
第4章 まちなみ観察・調査研究		
STAGE 3 (夏休みの活動・4時間目)	・・・	P 11
第5章 まちなみ模型づくり		
STAGE 4 (5～8時間目)	・・・	P 14
第6章 景観教室の学習を振り返って		
STAGE 5 (9時間目)	・・・	P 22

第1章 景観教室の概要

1 実施目的

「都市景観」は、市民一人ひとりの様々な生活意識や価値観に基づく活動の結果として創り出されるものであり、良好な都市景観の形成を推進するにあたっては、市民や事業者の景観に対する知識や認識を深めることが重要です。市では、このような市民の意識を醸成すべく、道路や河川などに地域の方々と協働して花を植えたり、また、景観シンポジウムや講演会といった各種イベントを開催するなど、様々なかたちで情報提供や啓発活動に努めているところです。

景観教室は、「都市景観」をテーマにした授業を学校教育の中にとりこむことにより、将来の都市景観形成の担い手である子供たちの景観に対する興味や関心を喚起し、自主的な活動を通じて知識の習得を図る試みです。

2 実施期間

平成17年6月 ~ 平成18年3月

3 実施協力

宮崎市立住吉中学校（荒木正邦校長）

4 実施科目

1年社会科選択（担当：野元政宏教諭）

生徒34名

5 実施項目

STAGE 1 景観教室について（オリエンテーション）

景観教室の内容、スケジュール等の説明

STAGE 2 まちづくりに関する学習

都市計画と住民参加のまちづくりについて

都市景観からのまちづくりについて

STAGE 3 まちなみ観察・調査研究

夏休みの自主研究、調査研究内容の発表

STAGE 4 まちなみ模型づくり

200分の1のスケールでまちなみ模型作成

STAGE 5 景観教室の学習を振り返って

6 実施概要

時間別実施状況

1 時間目	オリエンテーション 景観教室の進め方、スケジュール等説明 グループの編成：6班（各班5～6人）
2 時間目 3 時間目	まちづくりについて 都市計画と住民参加のまちづくりについて 都市景観からのまちづくりについて 夏休みの課題（まちなみ観察の目的など）
夏休み （8月）	まちなみ観察・調査 学校や自宅周辺、旅行先などで、気になった風景やまちなみを写真に撮り、撮影場所や感想をレポートにまとめることにしました。
4 時間目	まちなみ観察・調査の発表 夏休みに各自が撮影した写真を利用して、まちなみ観察のレポートをまとめ、一人ひとり発表を行いました。
5 時間目 ～ 8 時間目	模型づくり～ 各班でテーマを決めて、まちなみの模型を制作。 土台づくり（道路、土地の区画割り） 建物その他施設の製作 6つの班の模型について、特徴その他感想を発表後、改善すべき点等についてみんなで検証しました。 建物の配置や緑による修景等の改善を行いました。
9 時間目	景観教室のまとめ 実施報告書の作成準備（実施内容や各人ごとの感想をまとめました。）

第2章 景観教室の進め方（STAGE 1）

1 時間目 - 景観教室について（オリエンテーション） -

景観教室で学習する内容について、前年度の状況（生目台・東大宮中学校）を紹介しながら、実施スケジュール等を説明しました。



オリエンテーション

- ・「景観教室」の進め方、スケジュール等について
- ・班分け（1班5人～6人、6班に編成）



まちづくりに関する学習

- ・都市計画と住民参加のまちづくりについて
- ・都市景観からのまちづくりについて
- ・まちなみ観察の視点、調査目的



夏休みの課題（まちなみ観察・調査）

- ・生徒一人につき1個レンズ付きフィルムを配付します。
- ・学校や自宅周辺のほか、夏休み中の旅行先などで、気に入った風景やまちなみなどを写真に撮り、撮影場所、感想などをメモしておきます。



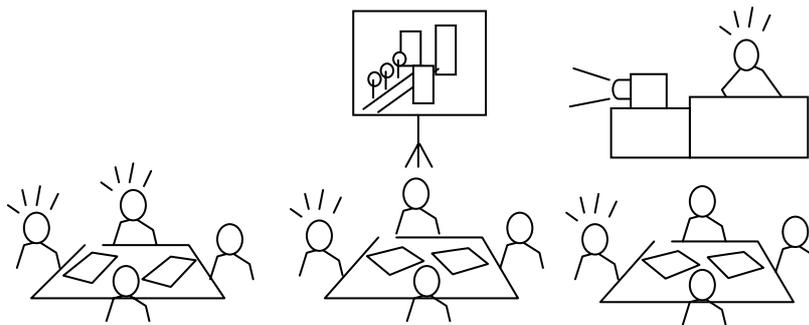
まちなみ観察・調査のまとめ

- ・夏休みに撮った、気に入った風景やまちなみなどの写真を整理し発表用のレポートをまとめる。



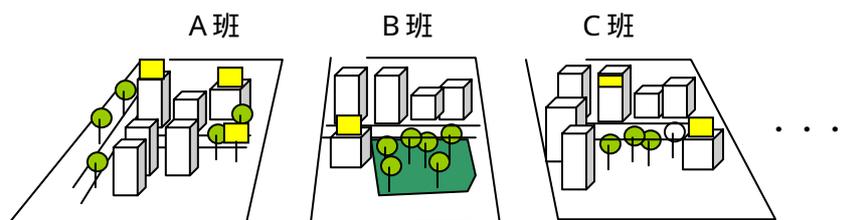
まちなみ観察・調査の発表

- ・生徒一人一人による観察・調査の発表



実習コーナー（模型づくり）

- ・テーマに沿って、調査した景観事例をもとに、景観要素と考えられるパーツを作り、各班がまちなみの模型をつくります。
- ・個別パーツによりどのように変化するか学習します。
- ・各班の模型を連続し、まちなみを認識させるようにします。



景観教室のまとめ

- ・ 景観教室のまとめを行います（調査、実習内容のまとめ）。
- ・ 実施報告書（小冊子）に載せる各人の感想その他の内容を検討します。

模型づくりを終えた時点で、まちづくりについてもっと詳しく勉強したい事項や疑問などがある場合には、特別（追加）授業を行います。

（例）緑のまちづくりについて・・・など

景観教室の実施内容については、

- ・ 小冊子にまとめ、参加生徒に配付します。
- ・ 今後の学校教育との連携を図るため、各学校にも配布します。
- ・ 実施内容については、市のホームページに掲載します。

第3章 まちづくりに関する学習（STAGE 2）

1 時間目 - 都市計画と住民参加のまちづくり -

まちづくりのための計画～都市計画について

わたしたちのまち・みやざきには、たくさんの人が様々に働き、学び、暮らしています。市民のみなさんが安全で快適な場所として、まちを健全に維持し、豊かに育てていくためには、まちづくりのための計画（都市計画）が必要となります。

道路、公園、下水道、さらには病院や学校などの公共性の高いものを都市施設と呼び、どこにどのくらいの規模でつくるのか、まちの大きさや人口などとのバランスを考えて整備することが求められています。また、まちのなかの貴重な自然環境を開発から守ったり、良好な都市の景観を守り、育てることも重要です。



Check さまざまな都市施設

私たちの生活は、そこに住まいがあるだけでは成り立ちません。快適な暮らしのためには、住まいと住まいを結ぶ道路や、憩いの場としての公園などのさまざまな都市施設が必要になります。

道 路

歩行者や自動車などの交通路としてはもちろん、防災空間（火災の広がりを道路空間でじゃ断）環境空間（風通し、明るさ、開放感などを確保）、収容空間（下水道や電線などを埋設）としての機能をあわせ

持ちます。

公 園

日常生活に密着した住民の憩いの場や住民同士の交流の場であり、スポーツ・レクリエーションの場、災害時の避難場所としての役割を担います。

下水道

家庭や工場などから出る汚水を排除し、悪臭や害虫、伝染病などの発生を防止し、雨水を排除して浸水からまちを守り、集めた汚水を浄化して海や川に放流する機能を果たします。

その他

このほかに、供給・処理施設としての上水道やごみ焼却場、教育文化施設としての学校や図書館、医療福祉施設としての病院や保健所などがあります。

Check まちづくりのルール

まちには、守らなければならないマナーやルールがあります。

まず、土地は、たとえ個人が所有するものであっても、周囲の状況を考慮して利用することが求められます。例えば、住宅地の中に、突然、大きなビルや工場を建てたらどうなるでしょう。静かだった住宅地は日当たりが悪くなり、出入りする車などで交通量が増え、騒音が出るなど住みやすい環境が大きく変わることになります。

このような問題を未然に防ぐために必要なのが、土地の使い方や建物の建て方についての共通のルールです。

都市計画法（1968年公布）

都市の発展と整備のための方法を定める法律。

建築基準法（1950年公布）

建築物の敷地、設備、構造、用途についての基準を定める法律。

Check 住民参加のまちづくり

地域住民にとって身近な事柄についての都市計画は、市町村が住民の意見を踏まえて策定・実施します。

事前に、公聴会や説明会を開いて、計画案を広く住民の方々に示し、その案に対する地域住民の積極的な意見や要望を計画に反映させていくことで、よりきめの細かい、その地域にふさわしいまちづくり計画を実現させることができます。

3 時間目 - 都市景観からのまちづくり -

都市景観とは？

視覚として捉えられる

建築物や木々の緑などの都市の風景

都市の風景をとりまく自然環境

市民生活の中から生まれてくる街の表情、文化、心象風景



Check 見える環境であり、生活環境そのものです。

物、人、場所の相互関係により成立するもので、これらをどのように調和させ、秩序を保ち、融合させていくかが課題となっています。

なぜ、景観を考えることが重要になってきたのでしょうか？

経済性、機能性が最優先

- ・ 技術的な面にしか配慮がなされなかったこと。
- ・ 規制の範囲内であれば、建築が自由であったこと。
- ・ 歴史的価値を否定した開発が進行したこと。

など、経済成長を重視したことで、自然環境の破壊や公害問題など様々な弊害があらわれ社会問題化しました。

法制度の未整備

私的財産である建築物などについて、景観の観点から規制・誘導を行う明確な根拠（法令）が存在しませんでした。

理論的、技術的検討の遅れ

「質」で判断されるデザインの基準づくりが、行政になじみにくかった（美の基準づくり）。



Check ゆとりある、豊かな生活環境の追求

全国一律の法制度のもとで、画一的な都市化が進展する過程で、歴史的なまちなみの保存や良好な自然環境に対する関心が高まり、身近な生活環境をより豊かなものにすることが求められるようになってきました。

景観行政の流れ

歴史的景観の保存から

歴史的背景を無視して進行する建築、開発に対する批判が、歴史的町並み保存・保全を行政施策に位置づける動きに発展し、その制度づくり

(条例・要綱)へと展開していくことになります(京都市、金沢市など)。



都市景観(デザイン)づくりへ

歴史的景観の保存・保全から出発した取り組みが都市全体の景観づくりを視点とした活動へとつながっていきます(横浜市・神戸市)。

先駆的な都市景観(横浜市 1965年頃~)

都市政策に「まちのデザイン(景観)を継続的にコントロールする」という概念を導入し(アーバンデザイン行政)都市空間の質的向上をめざして各種のプロジェクトを展開していきました。

- ・馬車道、伊勢崎などの商店街の再生
- ・重要地区のデザインガイドの策定
(山下公園周辺、日本大通り地区、みなとみらい21地区)
- ・歴史的建造物の保存など



宮崎市の景観行政

平成2年に「宮崎市都市景観条例」を制定し、具体的な施策に取り組んできました。

都市景観形成地区の指定(4地区)

- ・橋公園通り地区
 - ・高千穂通地区
 - ・一ツ葉リゾート地区
 - ・日南海岸地区
- } 景観形成の基準を設定

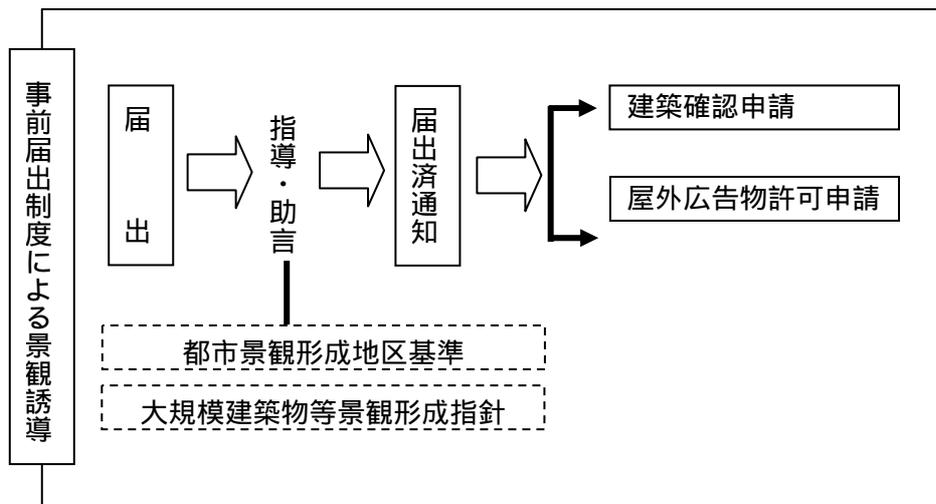


Check 具体的な景観誘導の手法

景観形成地区の景観を保全・創出するため、建築行為等の内容について届出を義務付け、事前に協議を行います。

大規模建築物等の事前届出制度（景観形成地区以外）

大規模な建築物や工作物は、都市景観形成に及ぼす影響が大きいことから、その事業者に対し、建築行為等を行うに当たって景観上どのように配慮したか、事前にその内容について届出を行うよう義務付けています。



市民意識の高揚

都市景観条例に基づく届出（協議）制度は、民間（個人又は事業者）を対象としておりますが、建築物等の形態・色彩等をコントロールしようにも、建築の自由、表現の自由に関わる問題があり、行政指導による景観誘導にも限界があります。

そこで、市民一人ひとりの景観に対する意識を高めることが重要になってきます。



Check 景観に対する市民意識の高揚

- ・宮崎市都市景観賞（平成4年度～）
- ・専門家による講演会等の開催
- ・違反広告物の市内一斉除却
- ・まちなみ観察隊の実施（平成12、13年度）
- ・景観教室（平成14年度～）
- ・都市景観海外（シンガポール）派遣研修（平成17年度～）
- ・オープンガーデン市民見学会（平成17年度～）

第4章 まちなみ観察・調査研究 (STAGE 3)

夏休みの活動 - まちなみ観察・調査 -

夏休みを利用して、実際に自分の住んでいるまちを徒歩又は自転車で観察し、まちなみの良いところや気になるところなどを自由にカメラで撮影することにしました。

家族や友達と旅行やキャンプに行ったときは、印象に残った場所や風景を撮影し、あとで自分のまちと比較してみることにしました。

Check まちなみ観察レポート作成

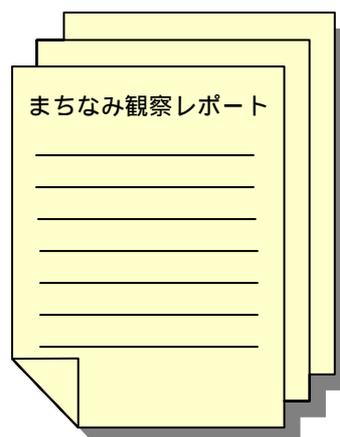
各自、できあがった写真を整理して、夏休み明けの授業で発表する内容をまちなみ観察ノートにまとめておきます。



レンズ付きフィルムを生徒に一個ずつ準備しました。



フィルムの現像等の費用も都市景観課で負担しました。



4 時間目 - まちなみ観察・調査報告 -

夏休みの課題として実施したまちなみ観察・調査について、好きな景観・嫌いな景観の写真をそれぞれ一枚ずつ選んで、写真を撮影した場所、理由などについて発表を行いました。



好きな景観の事例



[撮影場所]

住吉公園

[撮影理由]

植物もあり、小さな子供達が遊べるような用具・トイレなどもそろっていて良いと思ったから。



[撮影場所]

住吉周辺

[撮影理由]

家の色、柵の色が、他の色となじんでいて、とても良いと思ったからです。



[撮影場所]

宮崎大学住吉牧場周辺

[撮影理由]

並木の下に植えてある花がきれいだったから。



[撮影場所]

島之内周辺（10号線沿い）

[撮影理由]

お店などが並んでいる中で、このビルには、草花がうえてあってきれいだったから。



[撮影場所]

ニュータウンみずほ周辺

[撮影理由]

各家で花がいっぱいきれいにさいていて見ていると良い気持ちになったから。

嫌いな景観の事例



[撮影理由]

お店は、潰れているのにこんなに大きな看板をだしていたらいけないと思ったから。

[都市景観課コメント]

そうですね。このような看板は景観の面からみても早く撤去して頂くといいですね。



[撮影理由]

13階建てであまりにも高すぎるから。

[都市景観課コメント]

そうですね。あまりにも高すぎるので、周辺と高さを合わせるとよくなるのかもしれませんがね。



[撮影理由]

見える所にゴミがあると嫌になるから。

[都市景観課コメント]

ゴミが見えないような工夫をして頂いて、景観に配慮してもらいたいですね。



[撮影理由]

せっかくすべり台や走る場所があるのに、こんなに草ぼうぼうでぜんぜん遊べないから。

[都市景観課コメント]

景観を良くする為に緑化は大切だけど、管理をしないと逆に景観を損ねてしまいますね。



[撮影理由]

この建物だけ色が派手すぎるから。

[都市景観課コメント]

色の評価は人それぞれ好みがあるので難しいですね。見る人によっては派手に見えるでしょうね。

好きな景観に挙げた生徒もいました。

第5章 まちなみ模型づくり (STAGE 4)

5 ~ 8 時間目 - 模型づくりのまえに -

都市景観形成の手法について

まちなみの模型づくりを行う前に、都市景観の形成手法（より良い景観づくりのための手法）について勉強しました。

景観形成から見た都市の空間

景観形成の観点から、都市の空間を考えてみたとき、重要なポイントとして以下の三つの空間構成の概念が必要とされています。

・ 公的領域

道路空間に代表される公共の空間 = 公的財産

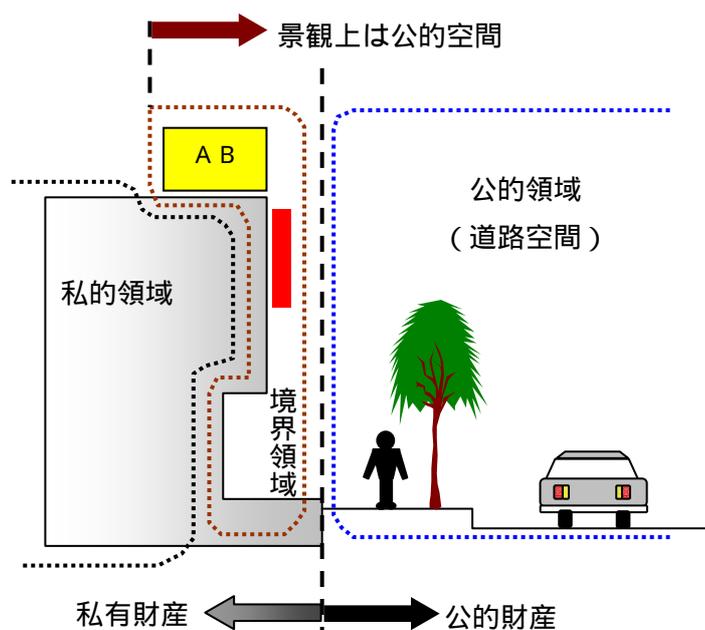
・ 私的領域

個人や会社等の民間が所有する土地建物等 = 私的財産

・ 境界領域

私的領域に属するが、公共の空間に面していることから、言わば半公共的な空間として位置づけられ、都市の良好な景観の形成を図るうえで、この境界領域をいかに誘導するかが課題となっています。

Check 景観形成からの都市空間の概念図

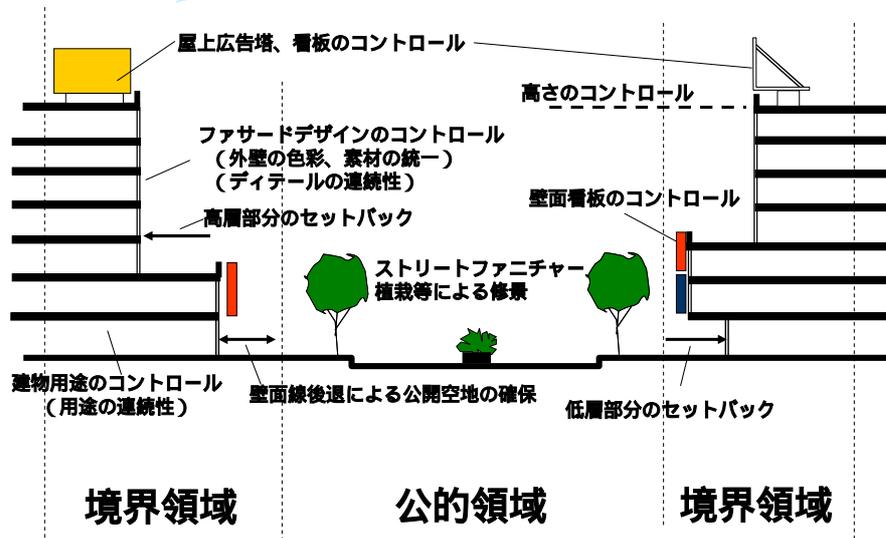


沿道景観のコントロール手法

道路空間から見た景観、道路に沿って続く連続したまちなみ景観を「沿道景観」といいます。良好な景観の形成を図るためには、景観を構成する様々な要素に目を向け、適正にコントロールすることが求められています。

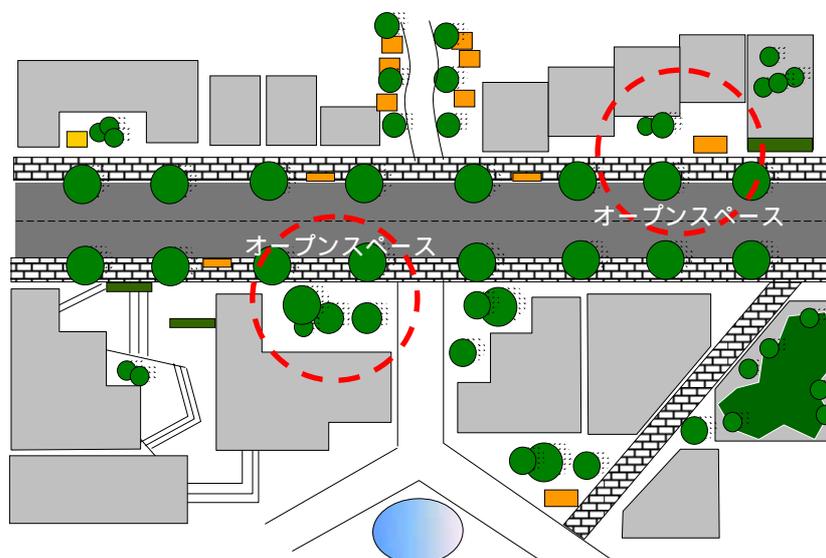
- ・ 建物の屋上や壁面に設置される屋外広告物（看板）
- ・ 建物の高さ（スカイライン）
- ・ 道路境界からの建物（壁面線）後退（＝セットバック）
- ・ 建物の外壁の色彩や素材の統一などファサード（前面）デザインなど

Check 沿道景観のコントロール手法



Check 都市空間の演出方法

(建物・植栽の配置、オープンスペースの確保など)



- まちなみのイメージづくり -

まちなみのイメージを共有する

まちなみの模型は、生徒を6つの班に分け、各班1個ずつ作ることにしました。どのような「まち」を作るのか、各班で話し合っ、自分たちの好きなまちを作ってもらいました。

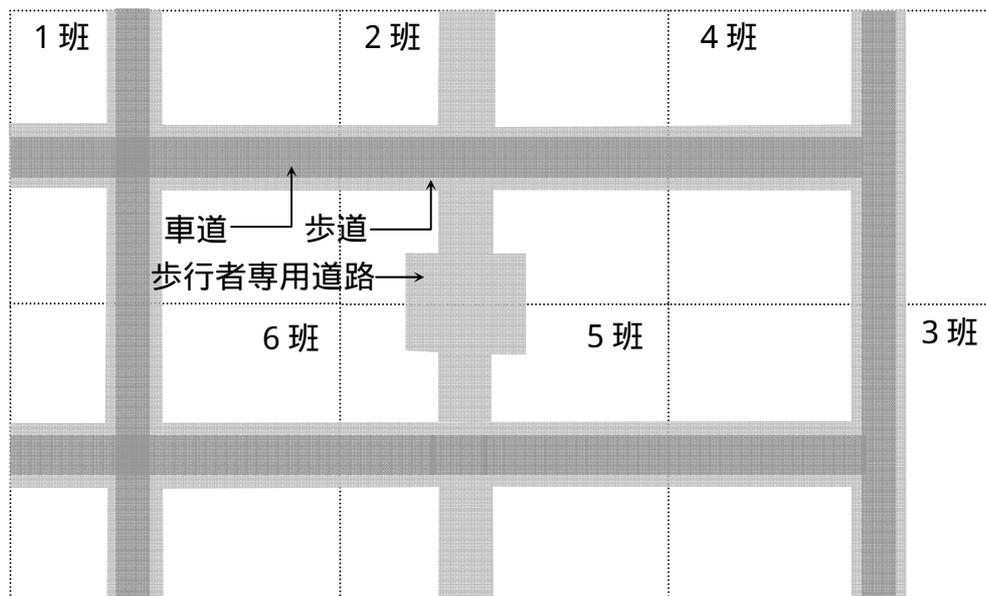
Check まちを構成している施設など

住宅、アパート、マンション、ホテル、学校、ビル、デパート、コンビニエンスストア、スーパーマーケット、飲食店、図書館、警察署、歩道橋、橋、工場、病院、公園、街路樹、まちのシンボルなど

- 模型製作風景 -

土台づくり（道路や敷地の区画）

メインストリートとおおまかな土地の区画線を記入した設計図をもとに土台をつくりました。なお、今回は都市景観課が事前に準備しました。



建築物などの箱物づくり

スチレンボードを切り貼りして、建築物などの箱物を組み立てていきます。

普段の生活でハサミやカッターナイフをあまり使わないせいか、最初のうちはぎこちない手つきでしたが、けがをしないように注意して作りました。

Check 三角スケールの縮尺（目盛り）に注意！

三角スケールには、1/100、1/200、1/250、1/300、1/500、1/600の縮尺目盛りがついています。まちがえないように使用しなければなりません。



各班の模型

1班から6班までの模型がそれぞれ完成しました。

1 班



4 班



2 班



5 班



3 班



6 班



模型づくりに関する感想

- 模型を作るときに気をつけたことは？ -

建物の高さや、緑を入れるところです。建物は、高すぎるものと低すぎるものはないかなど、考えて作りました。

どのような形の模型がよいのかを考えたことです。大きすぎるものもいけないし、だからといって、小さすぎるものもいけませんでした。

なるべく雑にならないように気をつけました。

建物の高さをだいたい均一になるようにしたり、建物の形を現実的なものにしたことです。

周りの建物と均一な大きさにするように心がけ、ビルの屋上の緑化も行うようにしたこと。

- 他の班の模型と繋ぎ合わせてみた時比べてみた時の感想など -

本当にいろんな建物や公園などたくさんあるのですごいなと思いました。

「これは、合わないだろう」というものもいくつかありました。

他の班は、自分の班よりも工夫がされておりすごいなと思いました。

いろいろな模型が組み合わされた時は、こんなまちが本当であればいいなと思いました。

変な形をした建物や実際の大きさにするとすごくおおきなビルになりそうな物などがありました。でも、その中には公園など広場もあったりして私はとてもいいなと思いました。

いろいろな事に気をつけたけど、他の班と繋ぎ合わせた時自分たちの班の模型は周りとはけこめていませんでした。やっぱり、一つひとつの建物の大きさや高さ、緑の間隔が大切だなと思いました。

比べて気付いたのは、みんな結構バランスとか見た目に気を使っているところです。ビルの高さや、緑の多さ、建物の位置など、他の班がきれいなので驚きました。

どの班もほとんど緑があっただけいいなと思いました。あれに、全部街路樹を植えるともっといいんじゃないかと思いました。

繋ぎ合わせてみると、建物の位置を変えた方が良さや、不要な建物など、自分たちの班の模型の良さや悪さが分かりました。

模型を比べると、他の班の人達と全然違うデザインだったので「こういう作り方もあるんだ」と思いました。

他の模型よりも、とても派手なまちなみになっていて、道路などを無視して高い建物を作っていたということが分かりました。

繋ぎ合わせた時は、一つのまちみたいでなんかかっこよかったです。

班ごとでばらばらでした。高層のビルのようなものが並んでいるまちからいきなり民家が変わったりしていました。でも、建物の配置をかえたりしてみると案外自然な感じになって良い景観が成り立ちました。

他の班は、シンボリックなものがあって華やかだったが僕たちの班には特別置いてなかった。

自分たちの模型も他の班の模型も緑やビルなどがバランスよく配置されていると思った。まちなみのようすを考えるのはとても大変だと思った。他の班と繋ぎ合わせた時、建物が大きすぎて合わない所や緑が少ない所があった。

合わせた時に、建物が大きくなりすぎていたので、もっと他の班のことも考えておけばよかったと思いました。

各班で作った模型の繋ぎ合わせ



繋ぎ合わせた模型を見て全体のまち並みについて修正点等についてはなしあいました。



この建物の配置はどうか？

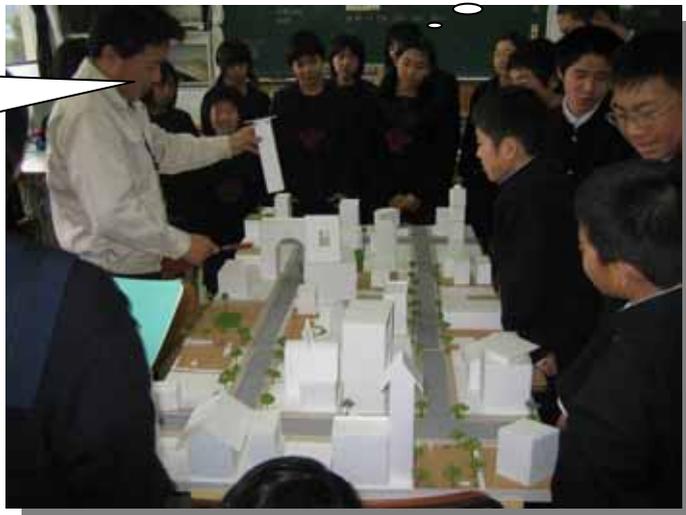


1つだけ高いのでおかしいです！！

動かしたほうが...！？

う~ん??

そうだね！！どうしたら良くなるかな？動かしてみる？



まちなみ模型の完成



完成だ~!!
よく出来たな~



第6章 景観教室の学習を振り返って (STAGE 5)

9 時間目 - 景観の学習を終えて -

感想

生徒のみなさんに、景観教室の学習を振り返って感想文を書いていただきました。全文を掲載することができませんが、その一部をご紹介します。

私は、初めまちなみ(建物)などを見ても特に何も思いませんでした。でも、この学習をしてからは、建物を見たりすると「この建物の色は周りになっていないな」とか、「この建物は明るい感じでいいな」と思ったりするようになりました。

景観教室を通して、学習をする前はまちづくりという観点でまちや自分たちの住んでいる地域を見ていませんでした。けれど、この学習ではまちなみ観察などで自分の地域のまちづくりで悪い点や良い点を見つけ、それをみんなですべていい地域のことを知りました。一年間でまちづくりのことのだいたいのことを知りました。でも、知らないことはまだあるのでもっともって知りたいです。

初め、夏休みに各自で写真を撮ると聞いたときは、何をとればいいのかなど思っていました。建物のいい所、悪い所なんて私に分かるのかなと不安でした。実際に写真を撮ってみると、そうではありませんでした。いつも歩いている道で、いつも見慣れているはずの景色だけど本当は見えていなかったのだなと思いました。いつもでは、気付かなかった事が、気付けたとても良かったです。

まち並み観察・発表を通して、あまりよく見ない自分の住んでいるまちを見る事ができました。よく見てみると、「緑が周り合っている」「派手すぎてよくない」などいろんなことに気づきました。発表では、私の知らない場所の風景もあり、こんな所もあるんだと驚きました。また、自分で調べたり、「まち」を作ったり、初めての体験でしたが、いろいろ気付く事があり勉強になりました。

私が住吉を見て感じた事は、歩道にあと少しだけ花など綺麗な植物を植える

ともしっかりいいんじゃないかなと思いました。花などを植えれば、空気もきれいにしてくれるし、見た目もよくて、何よりもみんなが「住吉に住めて良かった」また、「住吉に住みたいな」と思ってくれると思うからです。私は、みんなを優しくしてくれるようなきれいなまちづくりをしたいです。

まちの観察を通して思ったことは、良い景観もあれば悪い景観もたくさんあると思いました。その点を改善して住吉が良いまちになってくれると良いです。今まで、見えなかったものがこの景観教室を通していろいろ見えてきて良かったと思います。

まちなみの発表の時は、いろいろな所にいいまちづくりや悪いまちづくりがあることを初めて知りました。模型づくりの時も、でっかいビルなどそのまちにはあまりあっていないと思ったけど、少し修正するだけでいいまちができました。最初はまちづくりなどに興味はなかったけど、だんだんやっていくうちに楽しくなってきました。本当にこの選択を選んでよかったです。

まちなみ観察をして、自分たちの身のまわりの地域には、よく見るとこんなに良い所や悪い所があるんだなと改めて感じました。また、景観教室の学習を終えて、私たちのまちをきれいにするには、一人ひとり意識しお互いに協力しあうことが重要だと思いました。

まちなみ観察・調査をしてまちを知ったり、模型作りをおこなえたので楽しかったです。

夏休みに行ったまちなみ観察で写真を撮って発表をしました。他の人の写真などを見て住吉の歩道などの道に花が咲いているのは、住吉の人達が自主的に花を植えている事を知りました。この景観教室を受けて住吉の良いところや悪いところなどいろいろなことを知ることができました。

今まであまり、まちについて考えたりしませんでした。でも今回の学習で、自分達の身近なまちを観察などして、良い所や悪い所、たくさん見つけることができました。これからもこの学習をしたことを活かし、良い所や悪い所を見つけ、良い所はこれからも伸ばしていき、悪い所はしっかりと改善できるようにしたいと思います。

最初は、家などを作るのは難しかったけど後からだんだん慣れて作れるようになった。景観教室を通してまちのことがよく分かりました。

最初のころは、「まちづくり」って何だろう？とっていました。まちなみ観察をして身近に通っている通学路にも、悪いところがあったり良いところがあったりしました。それだけ、まち全体を見ていないんだなと思いました。模型を作りはじめて、どんな所に緑が必要なのかなどよく分かりました。まちをつくるにも、いろいろと考えないといけないんだなと思いました。模型を作っただけじゃなく、講話も聞けて良かったです。都市景観に関するところがいろいろ分かってよかったですと思います。

発表では、あんまりいいことが言えなかったと思う。模型で緑がいっぱいあったほうがいいと思ったり高いビルはやめたほうがいいとよく思った。

まちづくりに関する話を聞いて、意外に身近なところにもいろいろ工夫がしてあるんだなと思いました。まちなみ観察では、身近なところを写真に撮ったけどたくさんの良いところや、悪いところが見つかりました。だいたいの人が、建物の色のことでいろいろ言っていたので、色によって印象が変わるんだと思いました。いろんなことを、勉強することができました。

最初は、景観を知らなかったけど、資料など見ていくうちに景観のことを少しずつ知りました。まちなみ観察では、自分たちの地区の景観を見てきました。模型を作るのは難しかったけど、自分たちのまちができてうれしかったです。

いろいろな所のことを知ったり、そこには、どんな建物があっているかなど、考えたりして、楽しかったと思う。まちをつくっていくにも、とても大変なことが分かりました。こうやっているんなことをしていると、景観って面白いと思えてきた。とても良い経験だったと思う。これからも、まちなみのことを考えて見たいと思った。

今回、景観教室をして宮崎市のまち以外にもいろいろまちなみを見てみたいと思いました。景観教室で、今まで通り過ぎて気にしていないまちのことを、少し通るときに見ながら、「ああ、ここは派手だな」とか、頭の中で調べたりしています。これから、宮崎のまちなみがどう変わっていくかが楽しみです。

昔は全くまちづくりに興味がなかったけれど、今回の学習では、どうやってまちの風景や建物などのバランスを整えるのかということが分かりました。緑の大切さや、公園などの公共施設などの大切さなどが分かりました。今後

は、もっと自分のまちをよく観察しようと思いました。

一年間選択社会をやっているいろいろな地域のことについて知りました。まちなみの発表をした時は恥ずかしかったけど、他の人の発表を聞いて「住吉はこんなまちだったんだな」と思いました。次に、模型作りはとても楽しく勉強ができました。模型作りはまたやってみたいです。

私たちのまちの良い所、悪い所を発表したときにびっくりしたことは、こんなにも近くに悪い所があるんだということだ。学校に来る途中も、帰る時もちゃんと景色を見ているつもりなのに、全々気が付かなかった。他の県に行きよい所があったのでそのいいところを宮崎に取り入れたら、すごくきれいなまちになるんじゃないかなと思った。

この景観教室の正直な感想は、初めの方のパソコンを使っての説明は、一時間ずっと聞きっぱなしで眠くなったりしたけど、模型作りを始めて私にはとても新鮮で楽しいと思いました。その時選択社会を選んで良かったと思えました。最近どこかに出かけるとき、車内でよく外をながめるようになり、「あの建物かっこいい」とか今まで考えもしなかつたけど、少しずつではあるけど考えるようになりました。いい経験だったと思います。

いろいろなまちなみがどのような形をしているかが分かった。今まで興味はなかつたけど、選択社会にしてから気にするようになりました。

この景観教室でまちのつくりや工夫、そして自然のことについて大体解って良かったです。緑の大切さや緑の役割が理解できたことも良かったです。本当に良い勉強になったのでまたこういう学習があった時にこのことを活かしていきたいと思えます。

景観教室を通して、住吉のまちなみが今までよりもよく分かりました。長年住んでいるまちだけど、意外と知らないことが多かったことに気付かされました。まちなみ観察の宿題がなければ、こんなに住吉のいい所、悪い所に気付けないままだったと思います。

景観教室を通して、まちづくりにはどういう人達が携わっているのか、何を基準に景観の良いまち、悪いまちなどが決められているかなどがよく分かりました。この授業で学んだことを僕たちが大人になった時の、まちづくりに活かして、住みやすいまちをつくりたいです。

住吉には、公園など広場があまり無いということや、店や飲食店など多く通学路にも、車の出入りなどあぶない所がいくつかあるなという事など撮る時に思いました。なので、私は、これからもっと良い所が住吉・宮崎市に増えるといいなと思いました。そして、まちを良くするために自分ができ事はやって行き協力したいと思うし、住吉・宮崎市は良い所だと言いきれる場所にしていけたら、また、そんな所になってほしいなと思いました。

まちづくりに関する学習や、自分たちの住んでいる所の観察などを発表して良い点や、悪い点などが発表をとおしてたくさんあったと思いました。また、地域の人達のボランティアで花などを植えていたりするのを聞いて、僕たちにもできることはないのかなと思ったので、小さなことでもまちのためにやろうと思った。

写真などで、まちの店の色はその周りにあっているかという授業をしました。そして、宮崎のいろいろなことが分かりました。

まちづくりをする時、緑を多くしたり、明らかに派手だったりとか、その地域に似合わないところを建てないように考えて作るのはとても難しかった。模型を作るとき、みんなの意見を考えて作ろうとした時、緑が少ないとか、面積が足りないとか、みんなの意見を聞くまちづくりはとても難しい事が分かった。

まちづくりに関しての学習を通して、まちをつくるにはこんなに難しく大変なことだと思いました。

みんな、あぶないところを考えて、建物を作りました。また、建物作りをしている時は、とても緊張しました。みんなで、協力してやっていくことが大切だと思った。

初め、景観のことが理解できなかったけど、いろいろな課題をもらい、実際に体験したりすることで、意味が分かるようになりました。他の人の写真を見ていて、ある人が良い風景を写した写真を、同じ写真を悪いと言う人がいて、それぞれの意見があっていいなと思いました。この学習を活かし、近い将来、誰が見ても良い風景と思えるようなまちをつくっていきたいと思います。

あとがき

平成14年度から始めたこの「景観教室」も今年で4年目となります。将来の景観形成の担い手である子供たちに、少しでも景観に対する興味や関心を持ってもらえるように、景観やまちづくりに関する話題や具体の事例をたくさんとりあげました。

どの生徒もはじめは「景観」と言われても理解できていないようでありましたが、感想文を読んでもみると、好きな景観・嫌いな景観の調査とまちなみ模型づくりなどを通じて、少しは景観に対する意識も芽生えたのではないかと感じます。

また、今回は少ない授業時間ではありましたが、一生懸命に取り組み最後まで模型作りを終える事が出来ました。

この学習を初めとして将来の宮崎のまちづくりや景観づくりに携わる生徒が出てくることを大いに期待しています。

最後に、実施にあたり、ご指導、ご協力をいただいた宮崎市立住吉中学校の先生方や楽しい雰囲気の中で授業に臨んでいただいた生徒のみなさんに対し厚くお礼申し上げます。



人にやさしい宮崎

思いやりの心にみちた豊かな宮崎

自然と環境を守り、スポーツと文化に親しめる宮崎

平成18年3月発行 宮崎市都市整備部都市景観課
〒880-8505 宮崎市橋通西1-1-1
TEL .0985(21)1817 / FAX .0985(26)3520

